

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 神戸大学附属中等教育学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒658-0063

兵庫県神戸市東灘区住吉山手5丁目11-1

E-mail kuss-global@edu.kobe-u.ac.jp

Website http://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/

幼児児童生徒数 男子 424名 女子 478名 合計 902名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「グローバルキャリア人」育成を教育目標に掲げ、地球的諸課題を踏まえながら国際的に活躍・貢献できる生徒の育成をめざしている。ESDは本校の教育目標を達成する上で重要な柱であり、全教育課程(教科、総合学習、特別活動、課外活動等)に位置付け、教育改革の原動力として取り組んだ。

1) 教科横断的な中高一貫カリキュラム編成

以下のESD特設領域(中学社会科・高校公民科の枠内)を設置し、教科横断的な中高一貫カリキュラムを編成した。

- ・3年「ESD」では、社会科教員を中心に家庭科・理科・情報科・英語科教員が連携して実施。「環境」「水」「食」「資源・エネルギー」「情報化社会」等をテーマに生徒の調査・討論・発表を重視した学習活動を展開した。
- ・4年「国際理解」では、「移民」「気候変動」「平和」等をテーマに、模擬国連方式の学習を授業に取り入れ、地球的課題を探究した。
- ・新学習指導要領の方向性を踏まえ、上記特設科目と連動させながら、各教科でESD実践(及びプランの作成)を進めている。

2) 「地球の安全保障」を研究主題とする「課題研究」

- ・ 5・6年では、「総合的な学習の時間」で「課題研究」に取り組んだ。
「課題研究」では、「地球の安全保障」を研究主題とし、次の研究領域に分かれて、ESDに関連した個人研究に取り組み、全生徒が18,000字以上の論文にまとめた。(5・6年)
①震災・復興とリスク・マネジメント ②国際都市「神戸」と世界の文化
③提言：国際紛争・対立から平和・協力へ ④グローバルサイエンスと拠点都市「神戸」
- ・ 1～4年では、リサーチリテラシーの系統的育成を図り、上記「課題研究」の基礎を培った。

3) 国際交流体験、地域交流体験活動の推進

「グローバル&ローカル」な視点を取り入れ、以下のESD 国外・国内体験交流活動を展開した。

- ・ アートマイル（国際交流壁画共同制作プロジェクト、ESDを共通テーマとして海外の学校と協働学習）を実施。
- ・ JICA教育視察団受入れ交流を実施。
- ・ ベトナムハノイ国家大学外国語大学附属外国語英才高等学校、台湾高雄師範大学附属高級中学、米国ワシントン州インターナショナルコミュニティスクール高校生との相互交流を展開。
- ・ 宮城県内の大学、高等学校と連携した震災・復興・宮城仙台交流プログラムを実施。
- ・ 山陰海岸ジオパーク交流プログラムを実施。
- ・ ESD Foodプロジェクトを実施。



1) 特設教科「ESD」授業



2) 課題研究ゼミ



3) ベトナム交流校との広島研修



4) 復興庁訪問

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 市民団体と連携したボランティア活動) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| JICA 地球ひろば (2014) .『国際理解教育実践資料集』(第4版). JICA 広報室地球ひろば推進課. 多田孝志 (2017) 『グローバル時代の対話型授業の研究 実践のための12の要件』. 東信堂. 水島 司 (2011) 『グローバル・ヒストリー入門』山川出版. 世界史リブレット. 山田剛史, 林創 (2011) 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房. |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度） ※チェック事項1-2, 1-3に対応

ESDは、教育課程の全領域にわたって位置付ける必要があると考え、次のような試みを行っている。

1) 教育課程上の工夫

- ・3・4年生にESD特設領域「ESD」「国際理解」を設置し、ESDに関連するテーマについて教科横断的な学習を展開。
- ・5・6年生では、「総合的な学習の時間」を用いて、「地球の安全保障」をテーマに個人による「課題研究」を実施。

2) 教科での実践

- ・随所でESD教材を用いた授業を行っている。教科を越えた取組になる場合がある。
英・社・食「仮想水、フードロス」保体・家・食「ヘルスプロモーション」理「気候変動」「生物多様性」英・地歴「ホロコースト&EUの成立」理・英「防災・減災・復興」等

3) 特別活動

- ・アートマイル、高校生模擬国連参加をはじめ、国内外の交流体験事業を位置付けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度） ※チェック事項1-4に対応

本校では、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の事業とタイアップしながらESD実践を進めている。推進組織として「研究部」、分掌を超える全校的組織として「グローバル教育推進室」を置き、研究担当副校長・研究部主事（指導教諭）を中心に年間計画を策定し実行している。

神戸大学教員の支援を受けると共に、校内研究会を定例化すると共に、国際理解教育学会などの学会に教員を派遣し、教員自身の力量を高めることをサポートしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度） ※チェック事項1-5に対応

生徒に対して「グローバル意識調査」を毎年実施している。同調査では「知識」「英語力」等と共に、「批判的思考力」「多面的思考力」「課題解決力」「異文化体験」「国際貢献」等の24項目で、重要度と達成度を聞いている。併せて、自由記述回答を求めている。

生徒のESD課題に関する認識には、重要度・達成度共に上昇がみられ、学年が進行するにつれて、生徒の意識の発達モデルも明らかになっている。課題は「貢献」に関する意識を高める方途を明らかにすること。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD の成果は、次の方法で発信している。

- ①文化祭，オープンスクールでの発表・作品展示
 - ②授業研究会・SGH 年次報告会での作品展示・発表（含ポスター）
 - ③各学年の課題研究（学習）発表会，優秀者発表会，論文集の発行
 - ④市民団体へのアピール ⑤中高生のフォーラム，学会発表
 - ⑥大学でのポスター展示 ⑦教員による各種学会発表，協議会への参加
- 発信は，生徒自身が ESD への理解をさらに深め，成長の場となり，保護者や地域への ESD 理解を広める。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

神戸大学国際協力研究科の協力を得て毎年 JICA 研修団（発展途上国教育行政官）を受入れ，発展途上国の抱える課題（特に教育の問題）について英語を用いて意見を交換している。また，課題研究の進め方について神戸大学人間発達環境学研究科の支援を得ているほか，神戸大学ジャン・モネ COE による EU に関する講演会を実施している。なお，地域との連携については，神戸大学を拠点とする RCE ひょうご神戸に所属している団体（コープこうべ等）や「フードバンク関西」と連携して ESD フードプロジェクトにおける地産地消費や食品ロスの課題解決活動に取り組んでいる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

これまでユネスコスクールであるフランスの学校と「水資源管理」について協働学習を行い壁画を制作した。また，国内のユネスコスクールの広島県立安古市高等学校、東京都大田区立第六中学校)と「ESD フードプロジェクト」の学習成果の共有を行った。また、名古屋大学附属中等教育学校主催の「グローバルディスカッション」に参加し、同校及び東京学芸大学附属国際中等教育学校の生徒たちと国際的課題について英語によるディスカッションを行ったり、神戸市立葺合高等学校主催の「SGH・SSH 校研究成果発表会」において互いの課題研究の成果を発表し、意見交換を行った。今年度、神戸ユネスコスクール協会に加盟する本校を含む神戸市内の学校（本校、兵庫県立兵庫高等学校、兵庫県立北須磨高等学校、神戸市立葺合高等学校）の連携を強化する連携協議会が設置され、今後の交流活動が期待される。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールは、「生活体験を耕し、視野広く自ら深く考える生徒、困難な日本の教育環境の中にあって、グローバル化が進む社会に生きる自立した人格育成」に寄与している。ESD 等の個々の取組の成果については、今後の検証を待たねばならないが、ユネスコスクールとしての総合的な取組に対するトータルな評価については、本校が特筆すべき手法で実施している「グローバル意識調査」が証明している。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールとして、次の活動を行う。

- 1) 教員は、次期学習指導要領及び SDGs（持続可能な開発目標）について、深く学ぶと共に、新しい ESD 実践に取り組み、授業研究会・SGH 年次報告会で授業を公開する。（2月）
- 2) 課題研究に関する取組を成功させると共に、評価基準を整備する。また、教員による評価格差を是正する。（5-7月）
- 3) 「ESD」「国際理解」をはじめ、教科横断的な取組を強化する。（通年）
- 4) 次の生徒参加事業を実施する
 - ①文化祭での発表（5月）
 - ②アートマイル交流（9月～3月）
 - ③震災・復興プログラム（8月）
 - ④ジオパークプログラム（8,2月）
 - ⑤「ESD Food プロジェクト」（通年）
- 5) SGH とタイアップしながら、次の国際研修に取り組む。
 - ①シアトル研修：震災・復興・減災（10月）
 - ②ハノイ研修：ベトナムにみる経済再生（11月）
 - ③台湾高雄研修：「異文化理解」（12月）
 - ④ケンブリッジ研修：グローバルサイエンス（12月）
 - ⑤カンボジア研修：紛争・対立から平和・協力へ（1月）
 - ⑥EU 東京研修（EU 加盟国大使館訪問）：EU 加盟国からみた EU の課題（3月）
- 6) 神戸大学の一貫教育研究事業に参加し、ESD についての一貫教育研究を開始する。